

三田体育会長
山本 恵造



体育会百年

慶應義塾の体育会が創設されたのは明治25年のことであり、本年芽出度く創設100年を迎えたのであります。

福澤先生が近代日本建設の一大先覚者であった事は誰も異論のない処であります。体育の事に就いても、先覚者なのであります。幕末に於ける数度の海外視察の折、欧米の大学等に於て体育という事を学校の教育の中にとり入れている事を看とられ、新銭座の慶應義塾の規則書に「午後晩食後は、木のぼり、玉遊等、ジムナスチックの法に従い種々の戯いたし、勉めて身体を運動すべし」とあって西洋流の体育の考え方を盛り込んでいるのであります。其頃は武術の鍛練や修業という事はありましたが、むしろ苦痛に耐え技術を身につける為の訓練であって、アスレティックスポーツというものとは無縁のものであったと思います。こうした教育の世界に体育思想をもちこんだ福澤先生の先見性は改めて大いに評価さるべきものと思います。

明治時代に入り慶應義塾の体育も次第に盛んになり、幾つかの部が連絡を必要とする様になった為に、それ迄あった、柔術、剣術、野球、端艇の4部に新たに弓術、操練、徒歩の3部を加え、計7部を以て体育会を作ったのが明治25年であります。体育会長には福澤捨次郎氏がなされました。

其後多少の変遷もあり明治37年には柔道、剣道、弓術、端艇、水泳、野球、蹴球、庭球、器械体操の9部となりこれが大正の中期まで続きますが、それから次第に部の数も増加し100年後の今日では38部を数えるに至っております。

こうして体育会は実に古い歴史をもっているわけですが、歴史は古い故に貴いのではなく、その内容が問題であります。

明治末年から昭和戦前迄は慶應義塾の体育会各部は、夫々消長はあるものの学生スポーツ界に於いて、あらゆる意味でのリーダーでありました。戦後のブランクの為にやや低調な時期もありましたが、最近では大いに活性化しつつあるといえます。私達は100周年を契機として、戦前迄の光輝ある歴史を振り返り更に努力を重ねて、従来以上に充実し、他の追随を許さぬ、強く逞しき体育会を創り上げてゆかねばならないと思います。我々OBの三田体育会も全力で応援する覚悟であります。塾当局及び20万余の塾員諸兄の御声援御理解を心からお願いする次第であります。